



定価 一部金五拾圓 郵費五圓
廣告料 五部金一拾圓 一行金五拾圓
日曜祭日の翌日休刊
発行所 常磐寺日新聞社
電話 六二〇〇
印刷所 常磐寺日新聞印刷局

追善法要の由来と心得 (四)

眞 繼 雲 山

又これを祥月といふのは、祥とは祥と訓じ、凶服を去りて吉服に従ふの義であり、また、もと儒禮の大祥小祥の祥の字を取り来りしものであります。眞俗佛事編の卷三には「禮記によるに親亡して十三月の祭りを小祥といひ、廿五月の祭りを大祥といふ、既に一周年三年の月忌を祥といふに

りて、これより以後、毎年の忌日もこれに倣ふて祥月と名づく、これ我が國、俗の言ひ習せなり」とあり、す。祥月正月は共に正しき稱呼とすべきも、性月、生月、正月など書くは皆當らずといふべきであります

【問】世俗に死後三日目に「仕上の法事」と稱して佛事を致しますのは何に由来するのですか。

【答】これは見王齋と申し釋氏要覽には死後三日目に僧を招じて追齋を営むべきことが記されてあります。見王齋とは「王に見ゆるの齋」でありまして、むかし北齋の梁氏、死して三日目に妻子がお齋を施して追善を營んだ丁度そのとき梁氏は閻魔大王の前に引出されてゐたが遺族の追善が感應

して即時に地獄の苦を免れ極樂に生れ出たといふ故事に基くのであります。三日目とは限らず死後四十九日の間には毎日供養するのが宜しいのであります。

【問】七日ノノを區切つて死後四十九日のあいだ追善供養をいとなむのは如何なる道理によるのでありますか。

【答】遺族の追善供養を受けることによりて墮獄の亡者も樂處に轉生するの典據は諸多の經論中に數多くその證文を見ることのであります。七日ノノといふ日を示したるは地藏菩薩本願經に「若し能く更に爲めにその身の死後七々日の内に廣く衆善を造らば、このもろくの衆生をして永く惡趣を離れ、人天に生じて勝妙の樂を得せしめ現在の眷族は利益無量なるべし(中略)命終の日に臨みて一佛名、一菩薩名、一辟支佛名を聞くを得ば、有罪と無罪とを問はずことごとく解脱を得べし」との文、乃至十方隨願往生經(灌頂經卷十一)に「普廣菩薩、四輩に語りていはく若し人臨終未だ終らざるの日當に香を燒き、

燈を燃し、明を繼ぎ、塔寺の内、表刹の上に於て命過幡を懸け尊經を轉讀して三七日を竟ふべし然る所以のもの命終の人、中陰の内にはありて身、小兒の如し、罪福未だ定まらず、應に爲めに福を修して亡者の神十方無量の刹土に生せしめんと願ふべし、この功德を承けて必ず往生することを得」とある文中の七の數字に由来するのであります。斯く七日ノノに法要を修してゆき最後の七七四十九日にいたるまでを俗に中陰と申して最も大切に供養をしなければならぬのであります。

常磐寺

冬日譜 本津茂太郎

冬 獨りて歩むる街。街。街。白い雪が降つた山脈がみえる。なんと白いことよ。寒さに手も足もちぢかんで。赤い旗が出てゐたり、人が歩いたりする。ペエグメントをたつた獨りて歩いてゐた。春が来るのを。こころは待てるんだ！けれど身廻りの壁の色がわびしさよ。春にまよとあつたかいから

新學期の裁縫用具と通學手提カバン 澤山入荷致しました 平田町 ハシモトヤ糸店 電話一四番

生徒募集 藤田女學校 文部大臣認可 藤田女學校 認可 藤田女學校 認可 藤田女學校 認可

非常時の女性に促す 婦人職業の近道に 産婆看護婦を御選み下さい

平南町 産婆看護婦學校へ 産婆看護婦學校へ 産婆看護婦學校へ

耳鼻咽喉科専門 鈴木醫院 醫學士 鈴木正男 平町田町(電話五八番) 藤田女學校前

中村齒科醫院 平町 鍛冶町七

旭屋一六銀行 御利用を盛んに御取扱中 四百二十五番の電話次第 御便宜直様御取返び致します

江戸前料理 鳥金ぶら 大和漬 ぜび一度御試食下さい

錦水 出前 迅速 電話四五番

通學服と防水マント賣出し 可愛らし御愛取揃い 可取揃い 可取揃い 可取揃い

お嬢様用 洋服 3.80 ヲリ ちんちん用 洋服 0.90 ヲリ ちゃん用 洋服 1.60 ヲリ

お嬢様用 制服 3.60 ヲリ ちんちん用 セーラー服 2.80 ヲリ ちゃん用 防水マント 1.20 ヲリ

防水マント 1.55 ヲリ 中 ほかや洋服店 平三電208

鈴木醫院 醫學士 鈴木正男 平町田町(電話五八番) 藤田女學校前

中村齒科醫院 平町 鍛冶町七

平町優等受賞兒童

平第一校

要 新妻唯一 坂本剛 馬目英雄 馬目隆雄 佐川英一 小齊幹夫 古市光之 清水宣政 三井隆一 吉田昌八 三井隆夫 菅本庄一郎 戸石三雄 大嶺慶一 水津由雄 青山甫 鈴木啓吾 小野健二郎 高崎明彦 志賀惠三 吉田勤 端山節男 市毛敦 淺原信一 作山和男 兒山敬一 大和田一郎 高木勇 田代浩康 本多英夫 早川照夫 吉田直嘉 袴塚弘文 鈴木俊夫 鳥海司郎 坂本俊雄 (尋二) 根本幸三郎 草野昌平 川崎次男 青沼康裕 松本一 蒔田五郎 玉木英雄 豊口秀哉 安藤信田邊昇 廣木豊 柴田秀雄 伊關次郎 山崎七郎 菅野孝道 鈴木一男 武田三郎 藤田彌輔 關内正雄 水野隆 青木信夫 柏木洋二 若松英信 菅野光洋 藤井喜一郎 田中輝郎 酒井啓隆 鈴木德次郎 松崎貞夫 吉田利雄 山崎靖夫 石田吉男 樋口博尚 長谷川雅明 上澤成男 齊藤博 吉村三郎 星大 小林茂 (尋三) 小野晃平 酒井健 中澤幹太郎 清水俊政 柴田春雄 片寄武夫 馬目欣之助 吉田敬治 磯上剛 鈴木滿男 大谷繁雄 園井邦男 藤田文朗 水野敏

次郎 政井喜八郎 山崎福次郎 有賀敏夫 増井弘次 宇佐美甚一 小川一郎 新井保知 高野忠也 伊關太郎 安齊光男 關原定之 佐川清 上坂常磐 龜岡憲太郎 吉田登 後藤章 蛭田光一 袖山勝伯 (高等一) 鷺甚一 大城元吉 塚本慶治 松本徳男 福本新太郎 齊藤幸一 先崎清一 水野芳正 鈴木敏光 吉野弘泰 諸橋唯雄 吉田喜造 大森文勝 中島利夫 齊藤次男 林貞男 鈴木良太 鈴木保司 黒川利一 鹿島康宏 山野邊芳郎 (高等二) 松崎康利 瀬戸利雄 小野隆夫 大槻經之助 阿相善次郎 荒川忠一 曳地岩男 和氣泰一 高野雅夫 吉田政吉 後藤秀雄 細川圭造 八木沼一 (六箇年精勤) 佐久間伯光 青木秀夫 松崎富夫 山本愛之助 猪狩美智男 田久浩 東條正一 龜岡憲太郎 菊地正雄 米倉文男 鈴木光行 (八箇年精勤) 小野隆夫 田中一介 正木喜三 (石城郡教育會賞) (尋常科卒業生) 坂本行藏 柴田讓 伊關太郎 (高等科卒業生) 松崎康利 和氣泰一

平第一校

智子 横山八重子 海老根京子 馬目重子 山野邊繁子 根本和子 庄司コウ 佐藤玉江 中村里子 佐々木雅子 松本啓子 井上節子 木田美智子 關内喜代子 飛田絹枝 桑田康子 黒木雅子 草野トシ子 青木天目照子 高野静枝 海野和子 酒井やす 石田キヨ子 高橋道子 (尋二) 西野秀子 菅明子 坂内紀子 田卷隆子 白土三重子 清野光子 高木良子 會田美智子 谷島永子 河田静 飯沼俊子 殿塚むつ子 菅野榮子 増井ヤス 淺野瑛子 遠藤ミツ 渡邊照子 山中久江 中野静 櫻庭滋子 村上信 中根満子 鯨岡美喜 清野俊子 小齋峰子 岡田明喜子 堀久榮子 鈴木静渡邊ヒサ子 太田二三子 正木田鶴子 松崎マチ 木村イミ 酒井正子 吉田輝代 吉成照子 (尋三) 千葉怜子 大和田キヨ子 渡邊なが子 黒木智子 三井敬子 勝見米子 石和悦子 蛭田悦子 横山言子 秋山貞子 柴田離苦子 矢田部富子 鈴木蘭子 梅森道子 早川和枝 高崎喜代子 大嶺悦子 桑原貞子 長瀬多美 遠藤睦子 百澤英子 高橋正子 高橋京子 佐川行 佐藤ミチ 石川サエ子 友部宮子 白土アイ子 小川トヨ子 篠山達子 東條正子 緑川比奈子 (尋四) 梅津吉子 木村アイ子 關原芳枝 五十嵐

シノブ 阿部みさほ 金子トミ子 今井久子 大樂恒子 國井アキ 馬目静野口チエ子 木田秀子 關内満壽子 三浦榮子 大島キミ子 菅本幹子 松本ミツ高田アイ子 原ツネ 酒井良子 田仲マシヨ 坂本勝子 江尻キヨ子 阿部英子 佐々木アイ子 大谷經子 椎名時子 櫻庭美代 村山佳子 淺野敬子 藤井滿恵 田代喜美 鯨岡久 中村照吉田貞子 高澤ひろ子 (尋五) 根本ツネ子 飯塚さと子 小園井瑞美 石川清子 橋本喜代子 鳥海珠 桑田隆子 平澤タカ 金澤久江 高野作子 梶原フミ 關内義子 齊藤光子 高木絢子 箱崎幸子 長瀬喜美 瀬尾美佐子 杉山ツキ 端山多賀子 佐藤久子 鈴木スズ子 廣澤トキ子 大和田順子 鈴木とみ 橋本フミ 小川フミ 佐川周子 安田タマ (尋六) 近藤シヅエ 小野光子 中島多美 桑原ハツ子 吉田愛子 石井美智子 鯨岡富子 小宅ヒナ 佐藤トヨ 和田多美子 秋元キヨ 石山小夜子 桐谷つね 佐々木繁子 大和田智恵子 松崎悦 國府田シヅ子 橋谷田壽子 野木美津子 中村光 藤沼里子 荒木友子 正木千鶴子 江尻ミヤ子 村上富子 栗田ケイ子 小野淺子 菅野文子 中野弘子 高階翠 石川秀高一子 織田芳枝 近藤シヅエ 荒静枝 白土サト 鯨岡富子 齊藤幸子 八卷ヒデ子 白井ツル子 磯貝トヨ 瑞一子 萩喜和子 山野邊トミ 栗田ケイ子 豊田實穂枝 大久保英子 吉田敏子 本多サダ 猪狩

(石城賞) 近藤シヅ子 石山小夜子 正木千鶴子 (同窓會賞) 小野光子 桐谷つね 江尻ミヤ子 (高) 鈴木ひで 白土美子 櫻村喜美子 小菅イノ 藤内葉末 長谷川文子 目黒ミヨ 寺門敏 小野文子 廣澤好枝 永山ミヨ子 大木豊子 吉成貞子 鈴木タケ子 野田鈴子 荒川満子 根本廣子 格和京子 小谷テル子 今田操 中條ミチ 齊藤登美子 荒木トキ 栗城シゲヨ (高) 渡邊泰子 山崎ヒロ 堀江光子 難波ツネ 淺倉歌子 福田アサ子 酒井キク 渡邊ヒデ 橋トヨ 島田延子 小林三浩 丹野芳子 廣邊益子 増尾ノブ 江 檜山千代子 曾我久枝 鈴木芳子 菊地雪子 伊達清 佐藤光子 木田ミツル 小川キン 馬目弘子 矢島ノブ (八ヶ年精勤賞) 吉羽キク 小室ふさ子 島田延子 強口一子 草野千代子 猪狩竹子 (同窓會賞) 山崎ヒロ 島田延子 菊地雪子

平第三校

(尋一) 眞根井一 本阿彌博 井上通 清野賢昇 伊藤禮子 佐久間雪子 龜田洋子 古川エツ 荒木顯子 鈴木重利 青木綾子 加美山精三 金成誠三 福本寅雄 石田元宣 小泉武夫 鈴木寛 遠藤統雄 安齋良子 金成俊雄 志賀タカ子 新井津由子 松本光一 芳賀武重 (尋二) 三森孝子 五十嵐由紀子 鈴木博士 古市利子 岡崎榮子 新家武芳 諸橋英祐 佐藤方子 布施敏子 吉田良次 喜代明 杉本正 橋本久治 永

子供達の喜びに

明るい光 街に流れて

授與式の晴れの日

三月二十四日
例年の如く今日
日は平町五千
児童の晴れの
證書授與式で
ある小さき者の一ケ年間の
勉學の勞苦がけふ酬ひられ
やうといふのだ第一、二、
三

各小學校

ではそれ
午前九時から式を擧げ
たが三校卒業生六百名は式
後受持も訓導に引卒されて
子歟會神社に參拜卒業の報
告をした小さき

胸張つて 慈愛の父母
に今日の光榮を語るべく家
路に急ぐ今日の平町の街路
はこれら児童の喜びによつ
て明かるい光りが流れてゐ
た

トロが轉覆して 三名死傷す

圓通部長が原因取調中

赤井村福島炭鑛後山夫五十
嵐福(一三)は二十四日午前
五時頃東坑内で作業中逆行
してきたトロが轉覆その下
敷となり即死、炭車に乗つ
て居た坑夫鈴木喜太郎(三九)
同西田直吉(三〇)の兩名は瀕
死の重傷を負ひ同礦付屬病
院で加療中であるが生命危
篤、原因は平署圓通部長出
張調査中であるがロツプが
切斷されたためでないかと
いはれてゐる

函館市に

見舞百圓

平町から送る

未曾有の却火に見舞はれて
一朝にして廢墟と化した函
館市に對し平町では見舞金
として金百圓を昨日送付し
たが縣よりの指令により一
般からの義捐金も近く募集
に着手すると

教員保母試験 本縣
では来る五月二十一日より
五日間平町外四ヶ所て小學
校教員及幼稚園保母試験を
行ふ

産業組合協議

産業
組合石城郡部會では二十四
日午前十一時から平町産業
組合事務所樓上に理事會を
開き八年度決算九年度豫算
並に來る三十日開かれる部
會總會に提出すべき議案に
就て協議した

鐵道員との 戀に破れて

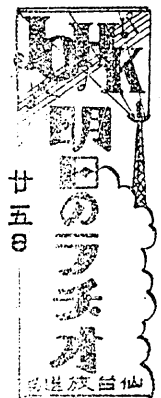
投身自殺を圖る

女給に身を沈めて心中立て

平町南町中山春代さん(三三)
は二十三日午後一時頃茨城
縣鹿島郡夏海海岸で飛び
込み
自殺を計つたが漁夫
に助けられ未遂に終つた旨
平署に通報があつた、原因
は同人は昨年夏頃平驛勤務
の長田幹三(三二)假名と戀愛
關係に陥入り夫婦の約束ま
でしたが本月初旬長田が水
戸驛に

轉勤となつたので

の後を追ひ去る十四日水戸
に至り棚町カフエー市村屋
方に女給に住込み長田と逢
瀬を樂しんでゐたが最近男
が冷淡な素振りをみせるの
で悲觀し去る二十日午前七
時前記市村屋を無斷家出行
方不明となつたもので本日



今夜の部
後六〇〇 子供の時間
クラネットと管絃樂
管絃樂「ハンガリアン舞
曲」ニクラネット獨奏
三ラヂオ行進曲 クラネ
ット進五郎 アルメリヤ
管絃樂團
後八〇〇 箏曲「調の
榮」「二、相生の曲」富崎

春昇
後八二五 歌澤「天の
戸」二、わしが國さ歌澤
相模
後八四〇 連続ラヂオド
ラム 第三回「富岡先生」
井上正夫外
後九三〇 時報 ニュー
ス 氣象通報 番組豫告
明日の部

偽造

銀貨發見

福島貯蓄銀行平支店預金掛
佐藤久雄氏は本日窓口で執
務中五十錢の偽造銀貨一枚
を發見午後三時頃平署に届
出たが右は本日午前十一時
頃平町立町製罐業一心堂事
小野寺金雄氏が預金の爲め
十錢及び五十錢銀貨等取交
持參した中より發見したも
のにて平署は出處嚴探中

時局と軍人後援

矢部主事が郡下を巡講

帝國軍人後援會本縣支部で
は郡下各町村の軍人遺族並
に傷痍軍人慰藉の徹底を計
る爲め來月一日より支會主
事矢部寛氏が「時局と軍人
後援に就いて」と題する講
演會を左記町村小學校に開
き尙會後には町村吏員軍人
分會員男女青年團青年練訓
所生等を招き懇談會を催す

裁判所たより

△既報赤井村大字栗川字山
ノ入福島炭鑛坑夫菅生精一
郎(三〇)が昨年八月十五日日本

前九、一〇 榮養料理献立
榮養研究所
前九三〇 子供の時間
前一〇〇〇 宗教講話
前一一〇〇 講演「電氣
の歴史」工學博士中原岩
三郎
前一二〇〇 「三都對局
新進勝拔將棋大手台」解
説八段木村義雄
後〇五〇 滿洲より
「各局の午後」
後二四〇 俚謠「鳥屋野
六階踊」堀田由太郎外大
勢
後二五〇 俚謠「信州松
代大門踊」歌中川孝三郎
外大勢
後三〇〇 俚謠 宮林行
夫外大勢
後三二〇 ラヂオ風景
「春に練に滑つて」西崎華
鶴外大勢
後六〇〇 子供の時間
童話劇「進級祝賀會の夜
BKコードモサークル
後六二五 産業ニュース
後七三〇 常磐津 常磐
津松尾太夫
後八〇〇 合唱 東京合
唱團
後八二〇 小唄小林さん
後八三五 義太夫 竹本
小土佐
後九一〇 清元「神田祭」
清元梅壽太夫外

インチキ療法が 發覺して檢舉さる

中であるがその外にも同様
手段で十數件のインチキ素
人療法を施したこと自白し

神谷村大字鎌田字小山下無
職二面時雄(三三)は昨年八月
頃草野村大字馬目字佐美鶴
吉が打撲傷で臥床してゐる
のをさ、家傳の秘藥と稱し
て無名の植物藥を一圓で賣
りつけ尙同人母マス(五七)が
持病の癩で苦しんでゐるの
をみて灸で治してやると下
腹部に大きな灸をすえ二圓
をせしめたが其後マスは前
記灸のため腹部がたゞれ二
三日苦しんだ揚句木村病院
に入院した等の罪狀發覺二
十三日檢舉され嚴重取調べ

平職業紹介所報告

求人を求める方
△外交員 二十―三十才位
高卒以上 歩合給
△女中 四十―二十迄 月
五圓
△大工 二十―三十才位
尋卒 日給七十錢乃至一
圓
△職を求めめる方
△土工夫 四十才 尋卒
△土工 六十才 尋三修
△事務員 十九才 中卒
△事務員 二十六才 高卒



【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴 演
山本英春 畫

第百八十八回 徳川家に崇る村正

うまく入つた問者

中根源太郎は由松から水上五太夫の話聞いて事依つたら父の仇の溝口五左衛門ではなからうかと考へたから、かねて懸念する北町奉行の井戸對馬守を訪れて始終を打ち明け五太夫の素性取調べ方を頼みましたそこで對馬守はこれを何者にめじようと考へたが同心の中にも腕利きの鈴木重太郎こそ適任だらうと思召したから早速鈴木をお呼びになつて云々と申し付けになる、心得て鈴木は己の屋敷へ戻つて来たが、ハテどうしたものだらう五年の間も家にゐた由松でさへも偶然の機會で一二の悪事は解つたが深い事は知れない、況して近所など調べたところでも知れる氣支へはない、なまじ洗ひ立てをしてそれが先方の耳へでも入ると却つて用心をされたり又遠電をされる恐れがある、今まで由松といふ者が下男働きのしてゐたその男がゐなくなつて後には八藏とかいふ老人が一人居るだけだ、若侍が大勢居るので女中は置かないといふから定めし自由のために界限の口入宿な



吉吉

たから早速入谷の鐵五郎の處へやつて来て重『扱て鐵五郎此の御奉行からこういふ調べ物を仰せ付かつた、拙者も次第に依つたら道場へ出入をして探るつもりだがお前の家の三吉を貸して呉れないか』

ひないから近所の口入宿を歩いて見ろ』
三『やつて見ませう』
鈴木は頼んで歸る、それから三吉器用な男で信州から出て来たばかりといふやうな装で青山界限の口入宿を片ツ端から歩いて見ると

成程鈴木重太郎の考へ通り水上の道場では今までママに働いてゐた由松が居なくなつて後に残つたのが老人の八藏が一人、用が足りなから至急由松の代りを入れようといふので口入宿を頼んであつた
○『それぢやお前さん劍術の道場へ行くかい、他にも米搗きや出前持ちの口があるが』
三『私しやハア劍術が大好きでござえますからその先方へ参りとうございます』
○『そうかい、そういふ望みなら丁度好い此處に書付を書いたからこれを持つてお出でお目見えをして若し動まりそうもなかつたら歸つてお出で、又他へ世話をしてお上げる、大層忙しい道場だから又お弟子の内には心注げをしてくれる人もあるだらう、マア辛棒をしないかい』
書付を貰つて水上の道場へ行く、八藏爺さん喜んで八『よく来てくれた、お前さん却々良い身體だ、これならウンと働きそうだな、ニゴ主人は一向構はねえ方だご師範代が三人居るからその人達に私から一言よく働く人だと言はふ、それでもう極つちまふんだから、この前居つた男も矢張りそうして入れたんだから、マア辛棒しておくれ』
三『どうか宜しくお願ひ申します』
二三日目見得をする、三吉金づくではないのだからよく働くので皆に氣に入ら

鐵『エ、結構でございます丁度三吉も来て居りますから此處へ呼びませう』
そこで自分の三吉を呼び鐵五郎からこれ〜と話をする、三吉も喜んで三『どうも鈴木且那お見立て下つて有難う存じます出来るだけ早くやつて来るつもりでございます』
重『イヤ、三吉誠に骨の折れる仕事で氣の毒だが一骨折つてもらいたい』
三『畏りました、でも早く住込めませう』
重『拙者の考へは違ひはないつもりだ、必ず水上の道場では人を探してゐるに違

れ早速證文をして住み込むことになりました、三吉の考へではこの八藏から聞き出すのがいいと思つたから夜になると酒を買つて来て三『八藏さんこれは私が此方へ奉公に上つた身祝だから一杯呑んで下せえ』
八『そりやどうも濟まねえな』
と八藏爺さん大喜びでそれから二人がチビリ〜飲み始めた

木村外科科門

平町六丁目橋際
電話三九〇

貨切の●●●
御用命は!!!
獅子吼(四四九)ノ勢デ
眞先ニ……(マツサキ)
三九二タクシ〜!!!

生徒募集

非常時日本と婦人の職業
近代の日本は婦人にも經濟の獨立を呼かけて参りました。婦人の職業として産婆看護婦といふ業は最も似つかはしい天職であります。
卒業年限僅か一年
開業すれば収益も多大で家政の内助ともなり、家庭の人となつても直接役に立つのは此の産婆看護婦の業であります。
戦争と日本婦人としての覚悟
一旦緩急あれば戦時看護婦として愛する母國への奉仕に務めませう。
古い傳統の歴史と縣下第一の好成绩を誇る平町一丁目の石城産科看護婦學校へ御入學下さい。

石城産科看護婦學校

校長 鷹崎千代

耳鼻科専門

平町南町一六

大和田醫院

電話一七〇番

有給外務社員數名集

経験の有無、男女ヲ問ハズ奮闘家ヲ望ム
固定給ノ外旅費支給、希望者ハ履歴書持参午前中御來所ヲ乞フ
明治生命保險株式會社
平地方募集事務所

小野勝康

主任 小野勝康
(改 長 吉)
平町字仲町二四

川崎文庫

電六三〇番
(申込次第規則書進呈)

自由の雑誌

御希望通りな
一冊の代金で
五冊の雑誌が
自由に讀める